

PRESS RELEASE

報道関係者各位

病院実習に向けた技能修得試験にアクティブラーニングを採用して教育効果を向上

～病院実習に向けた主体的な学びと自ら課題を乗り越える姿勢を学生に促す斬新な取り組み～

桐蔭横浜大学医用工学部生命医工学科では、臨床検査技師養成課程で義務化されている病院実習に臨むため、学内での技能修得試験にアクティブラーニングを取り入れました。学生の主体的な学びを促した高い教育効果を得ることができ、このようなアクティブラーニングの活用法は、臨床検査技師養成をしている他大学では実施されていない先駆的な取り組みです。

桐蔭横浜大学医用工学部生命医工学科は、臨床検査技師を養成するカリキュラムで、毎年多くの学生が卒業し医療機関や企業などで活躍しています。臨床検査技師になるためには病院実習（一般企業で例えるならインターンシップ）が必須で、本学では4年次の4-7月の4ヶ月間、現場で多くのことを学びます。病院実習は、リアルな医療現場で様々な経験ができますが、日々忙しく働く臨床検査技師の方に指導を受け、実際の患者さんが目の前にいる状況なので、1人の社会人としての振る舞いが求められます。そこで2020年からの新カリキュラムでは、病院実習に行く前に、全ての養成校で「技能修得到達度評価」を実施することが必須となりました。

この「技能修得到達度評価」は、病院実習に臨む学生が一般的な礼節や態度、基礎的な専門技能を身につけているかを確認します。そこで、本学ではその責任感と学習に向かう姿勢を身につけるため、アクティブラーニングを「技能修得到達度評価」に取り入れました。1-2月（場合によっては3月）を集中的アクティブラーニング（IAL）タームとして設定し、臨地実習の期間（4-7月）直前にこの活動を実施します。まず、患者さんへの接遇やサンプルを大切に扱うこと、基礎的な技能等について注意すべきことを、分野担当ごとに学生たちがグループワークでまとめ上げます。それを発表会で共有して、その後に相互に教え合う実技練習期間を設けます。実技練習期間は、本学の教育研究開発機構のアドバイスを受けて、ジグソー方式で自分が担当した分野を同じグループの人に教え合えるようにグループ再編しました。実際、自ら責任を持って自分のグループに教えることができていました。最後に、実技試験を行って、このアクティビティは修了です。



実施後に、学生にアンケートを実施したところ、実技試験をやってよかったと「とても感じる」、「まあまあ感じる」と100%の学生が答えました。病院実習後の振り返りでは、全ての分野項目においてアクティブラーニングをやったことが「役に立った」と90%以上の学生が回答しました。

また、自由記述でも「実技練習で皆にわかりやすく説明するために、グループの人と協力して作り上げてきた資料を、病院実習先で参考にできればいいなと思います。」「実技練習では自分たちで準備から片付けまで、行うことができました。大事なことだと思うので、臨地実習前に経験をさせて頂きありがとうございます。」などの意見がありました。



アクティブラーニングでは、学生が主体的に学ぶことや、自分1人では解決するのが少し高い壁を、協力しながら乗り越えていくことが重要です。まだ、始まったばかりの試みで改善を要する課題もいくつかありますが、学生への教育効果は高く、この方策は有効だと考えます。

お問い合わせ先

桐蔭横浜大学

【代表者】学長 森 朋子

【所在地】神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614 番地

【事業内容】4年制大学教育機関

【公式サイト】<https://toin.ac.jp/univ/>

【本件に関するお問合せ】担当：大矢、工藤

TEL: 045-972-5881 Email: u-koho@toin.ac.jp